

# 株式会社 丸 運

2018年3月期

通期決算説明会資料



2018年5月24日

**Maruwn Corporation** 



1. 2018年3月期 通期決算実績	p.1-4
2. セグメント別状況	p.5-10
3. 2019年3月期 通期業績予想	p.11-14
4. 丸運イノベーションおよび中期経営計画の進捗	p.15-21
5. 参考資料	p.22-31

# 1. 2018年3月期 通期決算実績



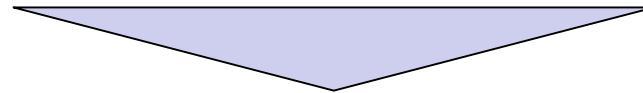
## 物流業界

### プラス要素

- 個人消費の回復により消費関連貨物が伸長
- 企業の設備投資および鉱工業生産拡大等により国内貨物総数量が増加
- 適正運賃收受のための価格交渉が進展

### マイナス要素

- 乗務員、構内作業員の不足等の構造的課題が残存



### 貨物輸送

- ◆ 乗務員、構内作業員の不足
- ◆ 人手不足、環境対応を背景にモーダルシフトが加速

### 潤滑油・化成品

- ◆ 潤滑油の国内需要横ばい
- ◆ 化成品の国内需要漸減
- ◆ 危険物倉庫の慢性的不足

### 流通貨物

- ◆ ライフスタイルの変化により中食市場拡大
- ◆ EC通販、コンビニ向けの物流ニーズ拡大

### 国際貨物

- ◆ 東南アジア市場の物流ニーズ拡大
- ◆ 国内⇔海外のシームレス物流の需要拡大

### 石油輸送

- ◆ 国内石油製品需要は継続的に減少基調
- ◆ 石油元売企業経営統合による市場構造の変化

# 通期決算（サマリー）

- 営業収益は、貨物輸送事業・国際貨物事業・流通貨物事業での取扱量増加および石油輸送事業での主要顧客との価格改定影響等により前期比2,725百万円の増収。
- 経常利益は、軽油価格上昇や輸送外注費増加等の減益要因はあったが、営業収益の増加に伴い良化し、前期比333百万円の増益。

(百万円)	17/3期					18/3期					対前年 増減額	対予(通期)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期		通期予想	達成率
営業収益	11,086	11,351	12,368	12,309	47,117	11,831	12,067	13,241	12,701	49,842	2,725	48,600	102.6%
営業利益	99	115	330	334	880	182	172	422	408	1,184	303	1,138	104.0%
(売上高比)	(0.9%)	(1.0%)	(2.7%)	(2.7%)	(1.9%)	(1.5%)	(1.4%)	(3.2%)	(3.2%)	(2.4%)	(+0.5%)	(2.3%)	(-)
営業外収益	54	17	51	19	143	60	16	58	32	168	24	-	-
営業外費用	11	10	15	7	45	10	11	10	8	39	△5	-	-
経常利益	143	122	366	346	978	232	177	469	432	1,312	333	1,200	109.3%
(売上高比)	(1.3%)	(1.1%)	(3.0%)	(2.8%)	(2.1%)	(2.0%)	(1.5%)	(3.5%)	(3.4%)	(2.6%)	(+0.5%)	(2.5%)	(-)
特別利益	7	16	24	60	109	7	19	21	93	141	32	-	-
特別損失	2	25	11	10	50	10	10	7	59	87	36	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	58	21	261	231	571	140	108	320	266	835	263	780	107.1%
(売上高比)	(0.5%)	(0.2%)	(2.1%)	(1.9%)	(1.2%)	(1.2%)	(0.9%)	(2.4%)	(2.1%)	(1.7%)	(+0.5%)	(1.6%)	(-)

# 通期決算（セグメント別）



(百万円)		17/3期					18/3期					対前年 増減額	対予(通期)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期		通期予想	達成率
貨物輸送	営業収益	5,633	5,746	6,001	5,957	23,339	<b>5,868</b>	<b>6,067</b>	<b>6,407</b>	<b>5,960</b>	<b>24,303</b>	964	23,777	102.2%
	経常利益	154	152	175	169	651	<b>150</b>	<b>146</b>	<b>248</b>	<b>135</b>	<b>681</b>	29	687	99.1%
潤滑油・ 化成品	営業収益	1,176	1,208	1,300	1,272	4,957	<b>1,191</b>	<b>1,225</b>	<b>1,291</b>	<b>1,272</b>	<b>4,980</b>	22	4,991	99.8%
	経常利益	35	24	60	47	168	<b>32</b>	<b>23</b>	<b>38</b>	<b>37</b>	<b>131</b>	△ 36	155	84.5%
流通貨物	営業収益	174	117	157	204	654	<b>294</b>	<b>131</b>	<b>156</b>	<b>143</b>	<b>726</b>	71	894	81.2%
	経常利益	△ 4	△ 13	7	7	△ 4	<b>29</b>	△ 14	△ 1	△ 4	<b>7</b>	11	50	14.0%
国際貨物	営業収益	1,341	1,333	1,711	1,521	5,907	<b>1,599</b>	<b>1,725</b>	<b>2,147</b>	<b>1,781</b>	<b>7,253</b>	1,345	6,560	110.6%
	経常利益	△ 17	△ 15	49	14	30	<b>29</b>	<b>54</b>	<b>138</b>	<b>61</b>	<b>284</b>	253	102	278.4%
石油輸送	営業収益	2,751	2,931	3,187	3,342	12,213	<b>2,866</b>	<b>2,903</b>	<b>3,228</b>	<b>3,531</b>	<b>12,530</b>	316	12,342	101.5%
	経常利益	△ 40	5	83	146	195	△ 22	△ 3	<b>54</b>	<b>249</b>	<b>277</b>	82	207	133.8%
その他※	営業収益	9	12	9	11	43	<b>11</b>	<b>13</b>	<b>10</b>	<b>12</b>	<b>48</b>	5	45	106.7%
	経常利益	16	△ 31	△ 9	△ 38	△ 62	<b>13</b>	△ 28	△ 8	△ 46	△ 69	△ 6	△ 23	300.0%
連結	営業収益	11,086	11,351	12,368	12,309	47,117	<b>11,831</b>	<b>12,067</b>	<b>13,241</b>	<b>12,701</b>	<b>49,842</b>	2,725	48,600	102.6%
	経常利益	143	122	366	346	978	<b>232</b>	<b>177</b>	<b>469</b>	<b>432</b>	<b>1,312</b>	333	1,200	109.3%

※ 「その他」の事業は、損害保険代行業・事務代行業等を含む。

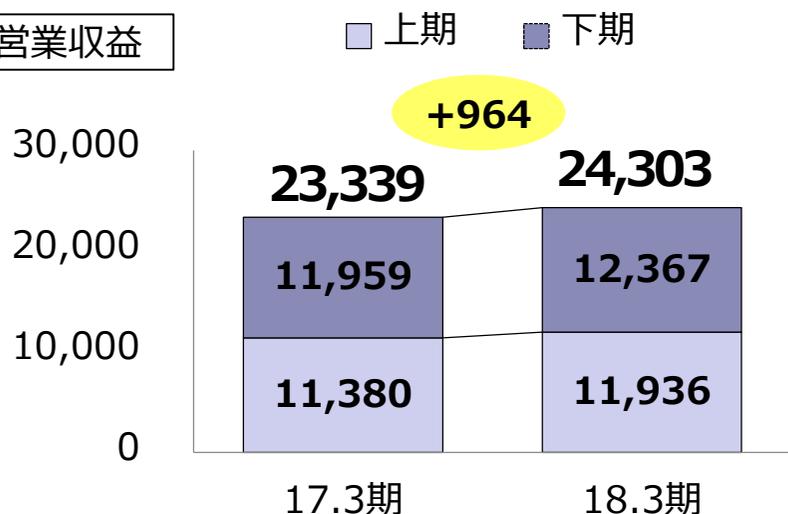
## 2. セグメント別状況



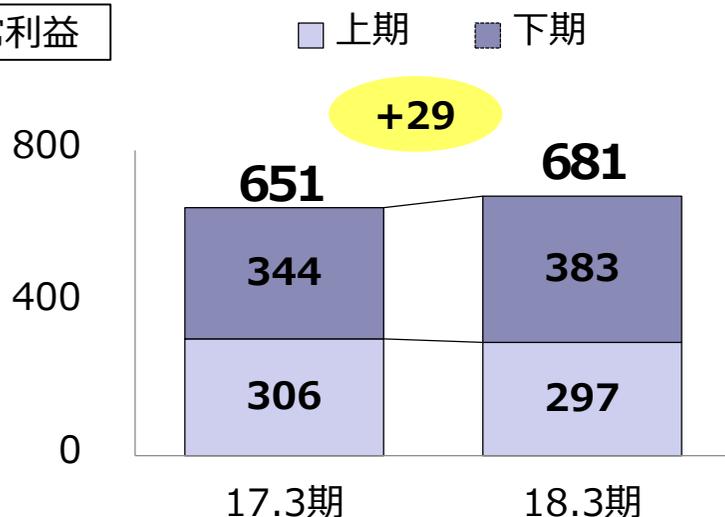
軽油価格上昇や関西拠点統廃合のコスト増要因があったものの、既存顧客との取引深耕や重量品搬入据付業務獲得等により、対前年増収増益。

## 業績推移（百万円）

営業収益



経常利益



## 18.3期の業績変動要因

- ◆ 既存取引深耕によりトラック貨物輸送・保管が伸長
- ◆ 重量品搬入据付業務の大口取引獲得
- ◆ 軽油価格上昇（対前年+10.8円/ℓ）
- ◆ 関西地区物流センター統廃合に伴う一時費用発生

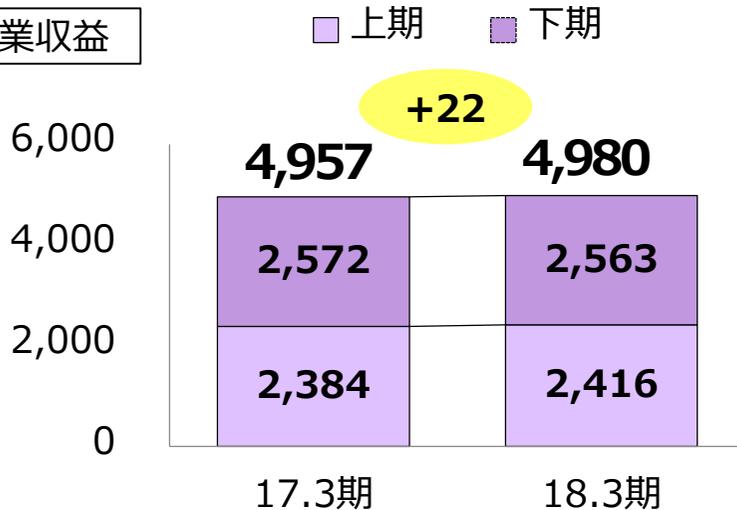


重量品搬入据付

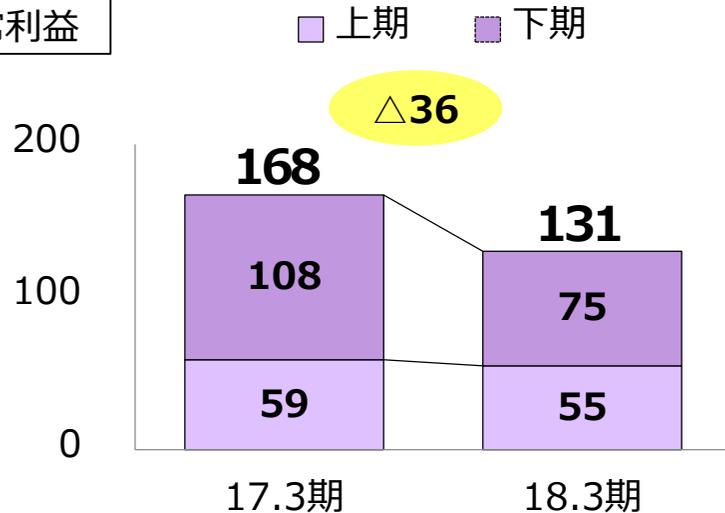
潤滑油部門の取扱数量の微増により対前年増収も、  
車両・人員不足による輸送外注費増等の影響により、対前年減益。

## 業績推移（百万円）

### 営業収益



### 経常利益



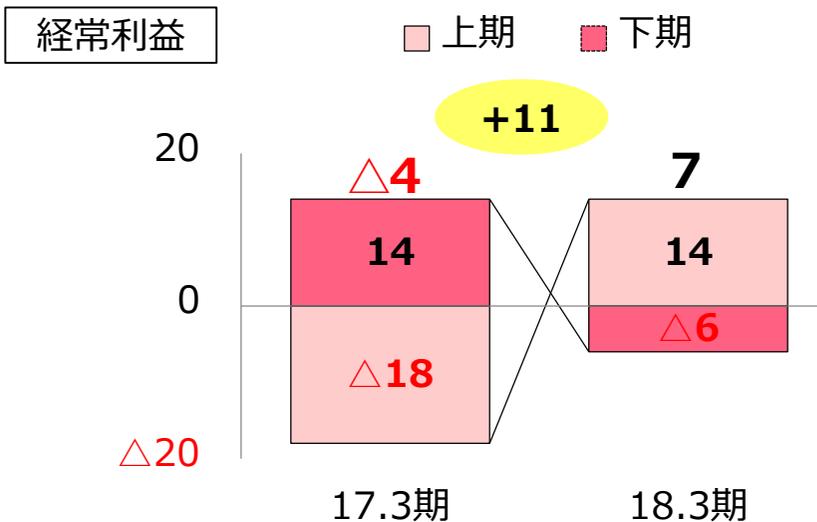
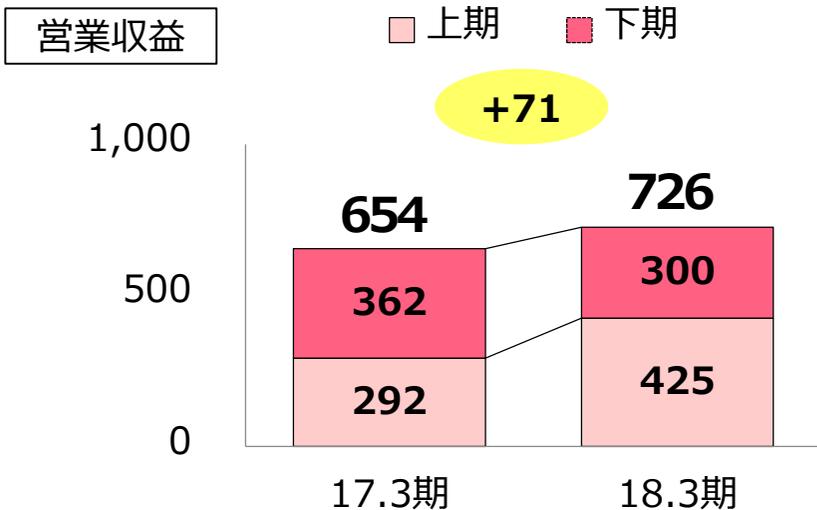
## 18.3期の業績変動要因

- ◆ 潤滑油部門における関西地区での配送数量増加
- ◆ 化成品部門における硫酸の配送数量減少
- ◆ 車両・人員不足による輸送外注費・輸送外注比率の増加



輸入野菜取扱量は減少したが、国産野菜の保管・配送業務が好調に推移。  
また、神奈川流通センターが本格的に稼働を開始し、対前年増収増益。

## 業績推移 (百万円)



## 18.3期の業績変動要因

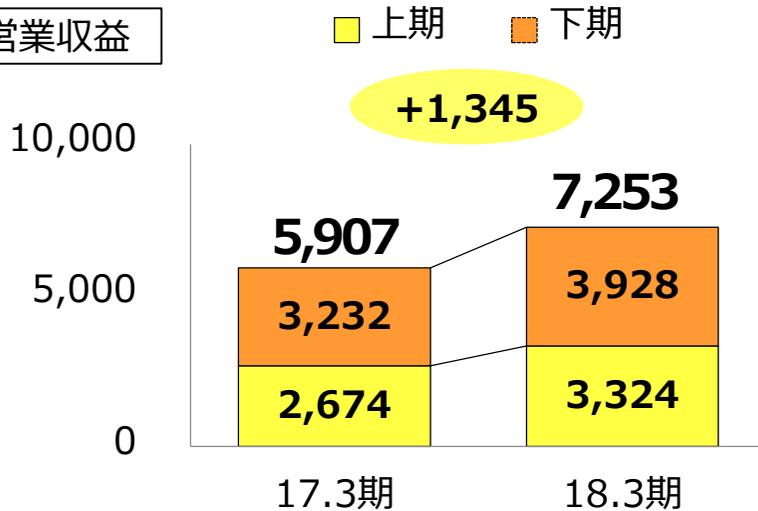
- ◆ 玉葱等の国産野菜の取扱量増加
- ◆ ブロccoli等の輸入野菜の取扱量減少
- ◆ 神奈川流通センター業務(フローズン & チルド流通加工、共同配送、多温度帯通販事業)が順調に推移



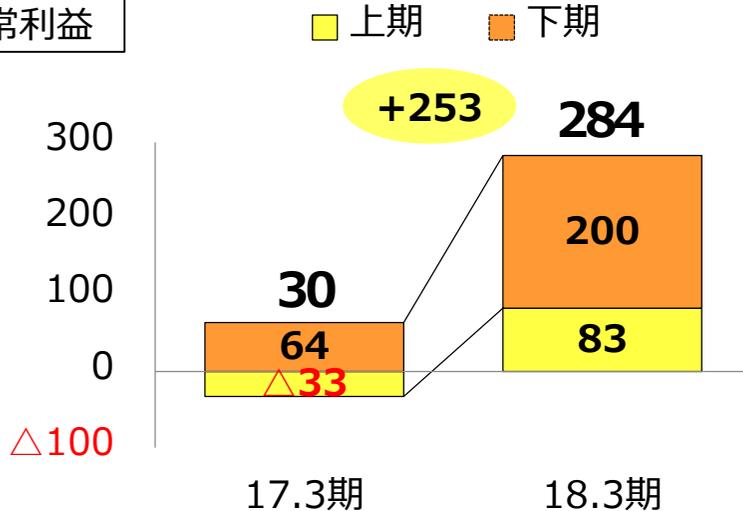
電子部品材料、重量品貨物の輸出取扱量が大幅に増加。  
海外事業においても、中国国内輸送が好調に推移し、対前年増収増益。

## 業績推移 (百万円)

### 営業収益



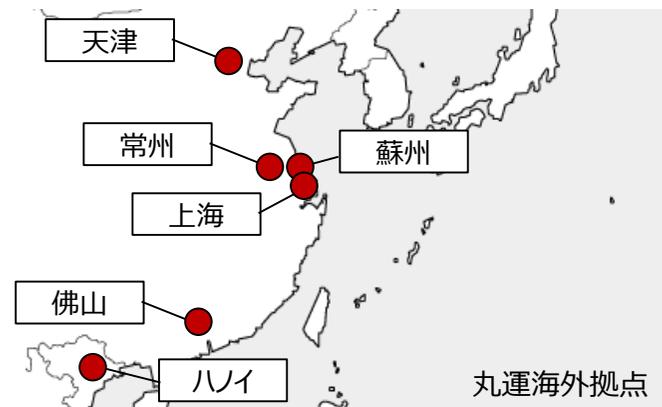
### 経常利益



## 18.3期の業績変動要因

- ◆ 電子部品材料・重量品の貨物輸出量が大幅に増加
- ◆ 一般消費材等の貨物輸入量が増加
- ◆ 中国経済の成長により、中国国内の貨物取扱量増加

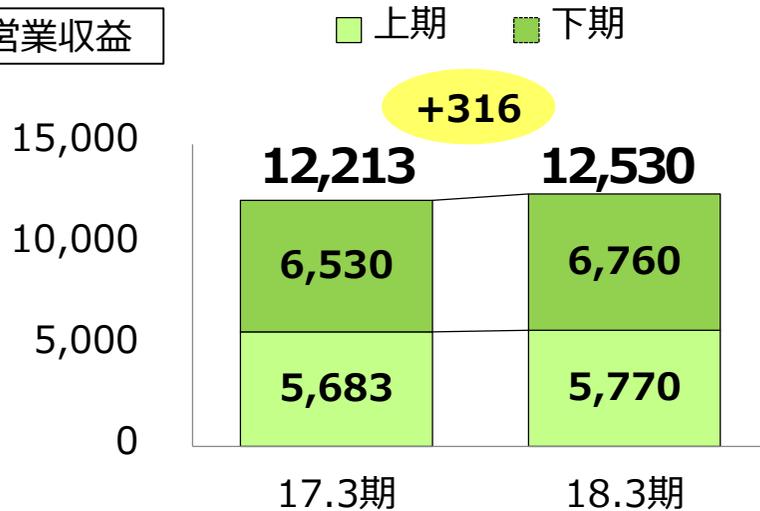
- ※ 2017.7 丸運国際貨運代理(上海)有限公司蘇州分公司を設立
- ※ 2017.8 有限会社丸運物流ベトナム(非連結)を設立



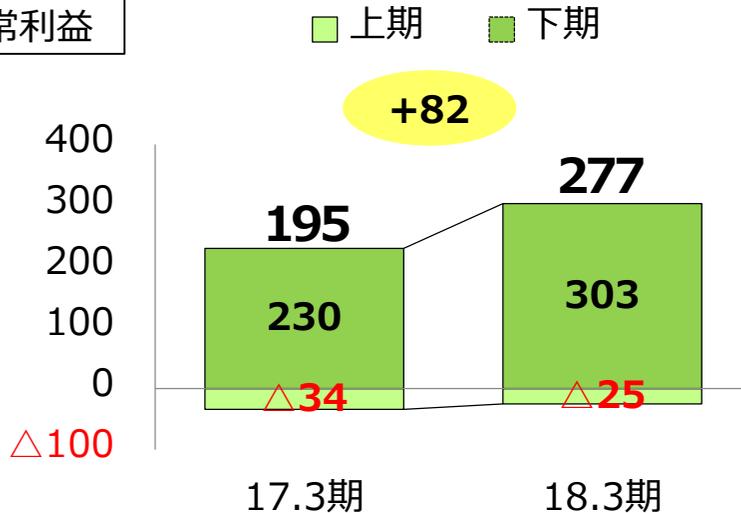
寒波の影響により、採算性の高い冬場の取扱数量が増加。  
さらに、主要荷主の運賃改定による値上げ効果もあり、対前年増収増益。

## 業績推移 (百万円)

### 営業収益



### 経常利益



## 18.3期の業績変動要因

- ◆ 取扱数量はほぼ前年並み (対前年△0.1%)
- ◆ 採算性の高い繁忙期(冬場)の取扱数量が増加
- ◆ 主要荷主の価格改定



# 3. 2019年3月期 通期業績予想

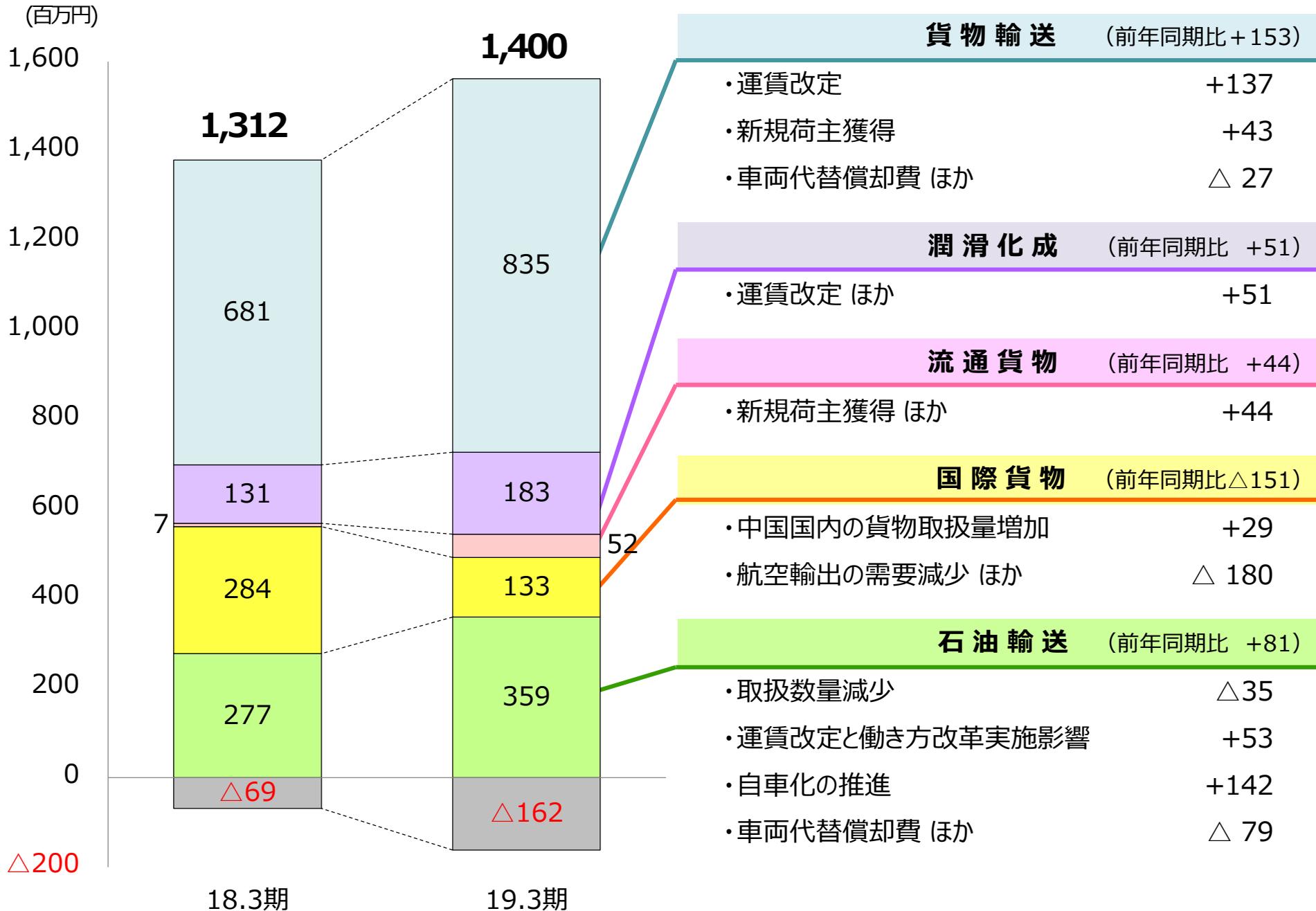
# 2019年3月期 通期業績予想



(百万円)		18/3期			19/3期			対前年 増減額
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	
<b>営業収益</b>		<b>23,899</b>	<b>25,943</b>	<b>49,842</b>	<b>24,600</b>	<b>26,000</b>	<b>50,600</b>	758
<b>営業利益</b> (売上高比)		<b>354</b> (1.5%)	<b>830</b> (3.2%)	<b>1,184</b> (2.4%)	<b>645</b> (2.6%)	<b>662</b> (2.5%)	<b>1,308</b> (2.6%)	124 (+0.2%)
<b>経常利益</b> (売上高比)		<b>410</b> (1.7%)	<b>902</b> (3.5%)	<b>1,312</b> (2.6%)	<b>687</b> (2.8%)	<b>713</b> (2.7%)	<b>1,400</b> (2.8%)	88 (+0.2%)
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b> (売上高比)		<b>248</b> (1.0%)	<b>587</b> (2.3%)	<b>835</b> (1.7%)	<b>483</b> (2.0%)	<b>480</b> (1.8%)	<b>963</b> (1.9%)	128 (+0.2%)
貨物輸送	営業収益	11,936	12,367	24,303	12,142	12,451	24,593	289
	経常利益	297	383	681	371	464	835	153
潤滑化成	営業収益	2,416	2,563	4,980	2,440	2,582	5,022	41
	経常利益	55	75	131	64	119	183	51
流通貨物	営業収益	425	300	726	443	382	825	98
	経常利益	14	△ 6	7	28	24	52	44
国際貨物	営業収益	3,324	3,928	7,253	3,330	3,415	6,745	△ 508
	経常利益	83	200	284	64	69	133	△ 151
石油輸送	営業収益	5,770	6,760	12,530	6,221	7,151	13,372	841
	経常利益	△ 25	303	277	153	206	359	81
その他	営業収益	25	23	48	24	19	43	△ 5
	経常利益	△ 14	△ 54	△ 69	7	△ 169	△ 162	△ 92

為替 16円/元

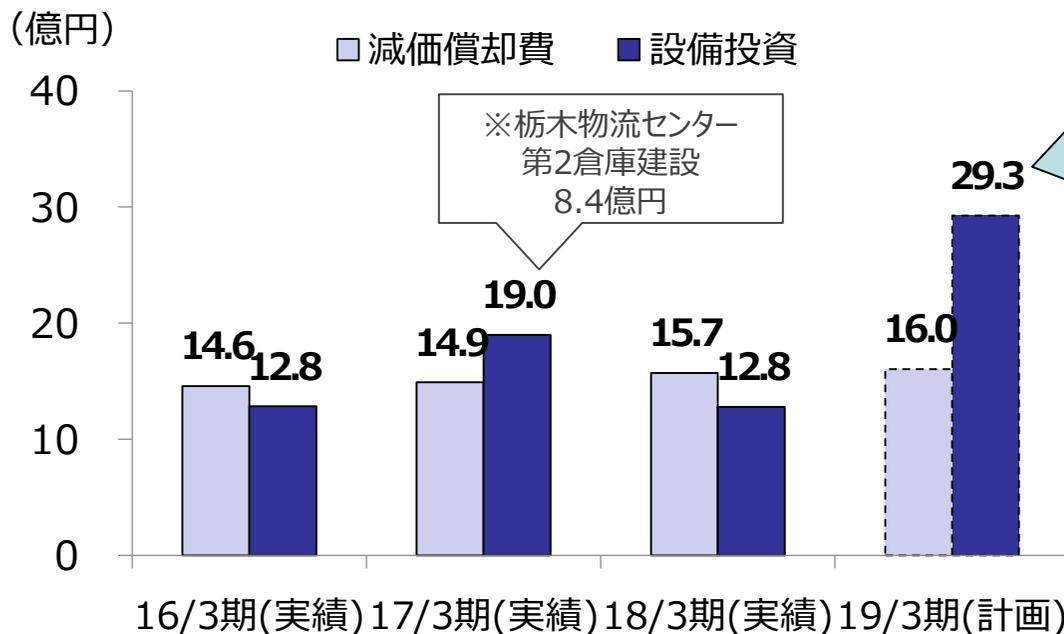
# 經常利益推移分析



# 設備投資・キャッシュフロー



## 設備投資



2019年3月期  
設備投資の主な内訳

基幹システム構築※	4.0億円
車両代替、更新	14.2億円
拠点拡充	8.5億円

※開発費総額…16億円(2021年3月期まで)

## キャッシュフロー

(単位：百万円)		18/3期(実績)	19/3期(見通)	増減
税引前利益		1,366	1,417	51
減価償却費		1,566	1,602	36
その他		▲ 883	▲ 517	366
<b>営業キャッシュフロー</b>		<b>2,049</b>	<b>2,502</b>	<b>453</b>
設備投資		▲ 1,279	▲ 2,926	▲ 1,647
資産売却		192	0	▲ 192
子会社株式(ベトナム)		▲ 110	0	110
その他		20	0	▲ 20
<b>投資キャッシュフロー</b>		<b>▲ 1,177</b>	<b>▲ 2,926</b>	<b>▲ 1,749</b>
<b>フリーキャッシュフロー</b>		<b>872</b>	<b>▲ 424</b>	<b>▲ 1,296</b>

# 4. 丸運イノベーションおよび 中期経営計画の進捗



グループ  
経営理念

長期経営ビジョン  
(2017～2026年度)

丸運イノベーション

中期経営計画 2017～2019

## ＜丸運グループ経営理念＞

### ● わたしたちの使命

「お客さまの物流ソリューションを最高の品質と創造力で革新し社会の発展に貢献します」

「私たちは、今後10年間に毎年2%以上の成長を続け、組織そして個人も、ともに20%以上パワーアップした姿に進化することを目指します」

- ビジネス・イノベーション
- マインド・イノベーション
- コスト・イノベーション
- システム・イノベーション

長期経営ビジョンに基づく3年間の実行計画

～10年後につながる成長戦略ビジネスの展開～

## 1. B to Business

- 自車化推進（並行的にドライバーへの働き方改革の適用）
- 営業戦略会議設立による成長ビジネスの探索（関西地区の統廃合等）

## 2. B to Consumer & CSR

- 社会貢献型ビジネスの展開（青春応援便の展開等）
- サステイナ物流ビジネス開発（モーダルシフト、新エネルギー関連ビジネス等）

## 3. B to Overseas & Outside

- 中国拠点の拡充（佛山・蘇州に分公司設立、佛山・蘇州・常州を増床）
- メコンデルタへの展開（ベトナム現地法人の設立）

## 4. B to Memorial & Monumental

- 東京オリ・パラ、リニア新幹線、山手線新駅等メガ公共事業への参入検討

## 5. B to Efficiency

- 適正運賃収受に向けた運賃改定交渉を本格的に開始

## ～丸運スピリットのパラダイムシフト～

### 1. 戦略立案機能の強化

- 営業戦略会議の実施
- 与信管理機能の強化
- 投資採算基準の整理・見直し（積極投資の推進、フォローアップ体制の整備）

### 2. CSRマインドの涵養と実行

- 丸運品質保証体制の構築（独自の物流品質ガイドライン作成、品質目標※の設定）  
※貨物事故・トラブルの削減／顧客満足度維持・向上／全業務での5S活動計画の刷新・強化
- コンプライアンス月間、安全月間、品質月間、環境月間、社会貢献月間の展開

### 3. 人材開発プログラムの充実

- リーガルマインド、経理・財務マインドなどの集中・導入教育プログラム策定
- 人材開発プログラムの充実（3コースを新設）

## ～コスト削減は日常的かつ永遠の課題～

### 1. 保険料の削減 (19.3期 削減効果額 20百万円)

- 共同保険の導入

### 2. 事故削減プログラム導入

- 熟練者作業手順のデータ化
- 運転状況の見える化
- 現場インタビューに基づくコンサルティング

### 3. 自車化推進 (19.3期 削減効果額 142百万円)

- 車両集中購買によるスケールメリット検討
- 採用強化

### 4. 原価逡減運動の展開 (19.3期 削減効果額 8百万円)

- ETCカード加入先、販促物制作委託会社変更等

### 5. 本社管理費削減プロジェクト発足

## ～丸運グループの全面的な業務改革を推進～

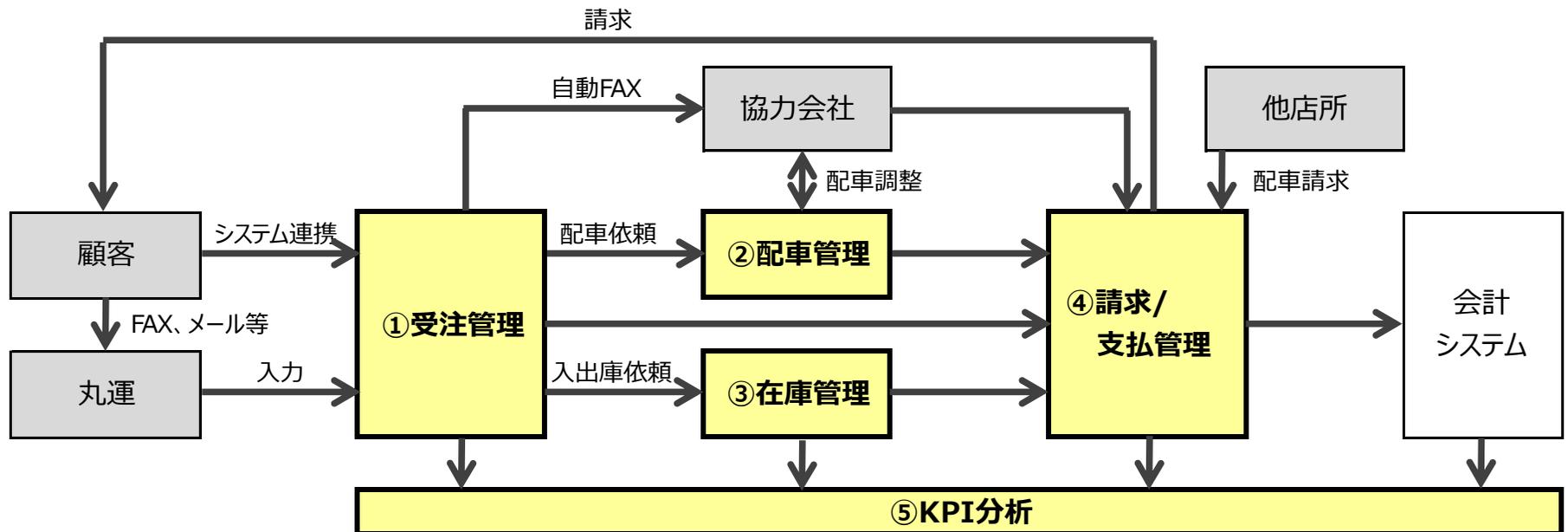
### 1. MLS (丸運ロジスティクスシステム) プロジェクト

#### ● 概要 『基幹4システムの全面的な刷新による業務改革の推進』

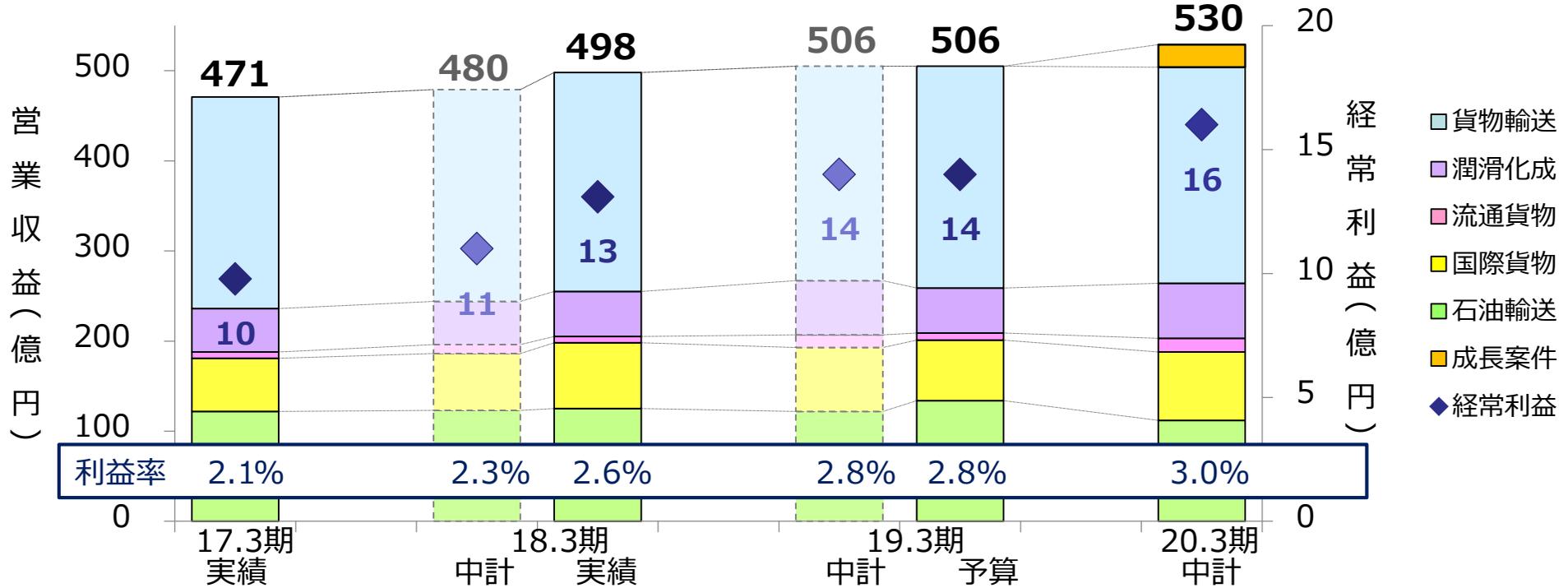
- 対象システム：「輸配送管理」「倉庫管理」「統合マスタ管理」「情報分析」
- 開発期間：2018年5月～2020年4月（2020年度中に本格稼働）

#### ● 期待される効果

- 業務効率化による総業務量削減⇒「働き方改革／丸運バージョン(Action 10to8)」の実現
- 創出された時間を営業活動へ注力することによる営業機会拡大
- 現場への経営情報のタイムリーな発信・活用による業務効率化、採算管理の向上
- IoT対応力強化による輸送品質向上、提案力向上



# 中期経営計画の進捗



## <セグメント別取り組み>

### 貨物輸送

- ・既存顧客との取引深耕
- ・新規顧客の獲得

### 潤滑油・化成品

- ・石油元売との取引深耕
- ・新規顧客の獲得

### 流通貨物

- ・拠点拡充
- ・元請業務の拡大  
(流通加工、共同配送、多温度帯通販事業等)

### 国際貨物

- ・日本・中国・ベトナムの3拠点間のクロスボーダー取引拡大
- ・拠点・保管倉庫の拡充

### 石油輸送

- ・自車化推進
- ・安全品質レベルの向上

### その他

- ・コスト削減
- ※MLS(基幹システム)の投資効果は2021年3月期以降に影響

## 5. 參考資料

商 号	株式会社 <b>丸 運</b>
	Maruwn Corporation
所 在 地	東京都中央区日本橋小網町7-2
代 表 者	荒木 康次
創 業	1892年（明治25年）9月21日
設 立	1938年（昭和13年）12月17日
上 場 取 引 所	東京証券取引所（市場第一部 CODE:9067）
資 本 金	35億5,923万円
従 業 員 数	2,112名（連結）／400名（単体）
車 両 台 数	1,873台
連 結 子 会 社 数	18社

※従業員数・車両台数・連結子会社数…2018年3月31日時点

丸運は5つのセグメント事業部を要し、  
お客様の物流ソリューションを最高の品質と創造力で革新します。

## 貨物輸送事業部

- 一般貨物輸送。取扱品目は重量物、異形物、長尺物、日用品、特定信書など多種多様。全国に物流センターを構え、保税貨物にも対応。産業廃棄物のリサイクル(静脈物流)も。

## 潤滑油・化成品事業部

- 潤滑油・化成品の詰品輸送・保管およびバルク輸送に対応。危険物倉庫、ケミカルローリー、ISOコンテナなどを保有。

## 流通貨物事業部

- お客様の流通加工スタイルに合わせた最適物流を展開。5温度帯（常温、定温、冷蔵、氷温、冷凍）での品質管理が可能。

## 国際貨物事業部

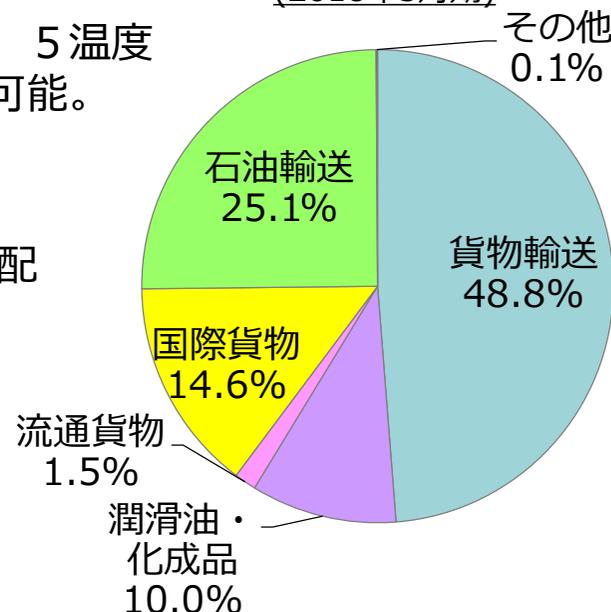
- 輸出入に関する通関業務、船便・航空便・ドレージ手配および海外現地における物流業務全般に対応。

## 石油輸送事業部

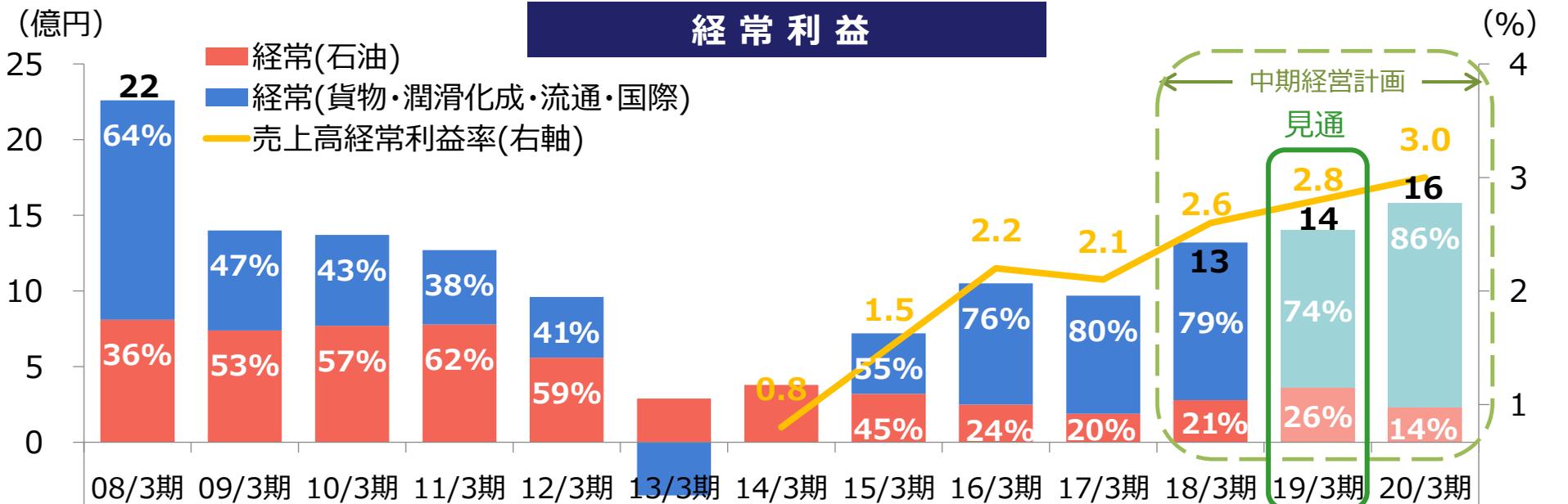
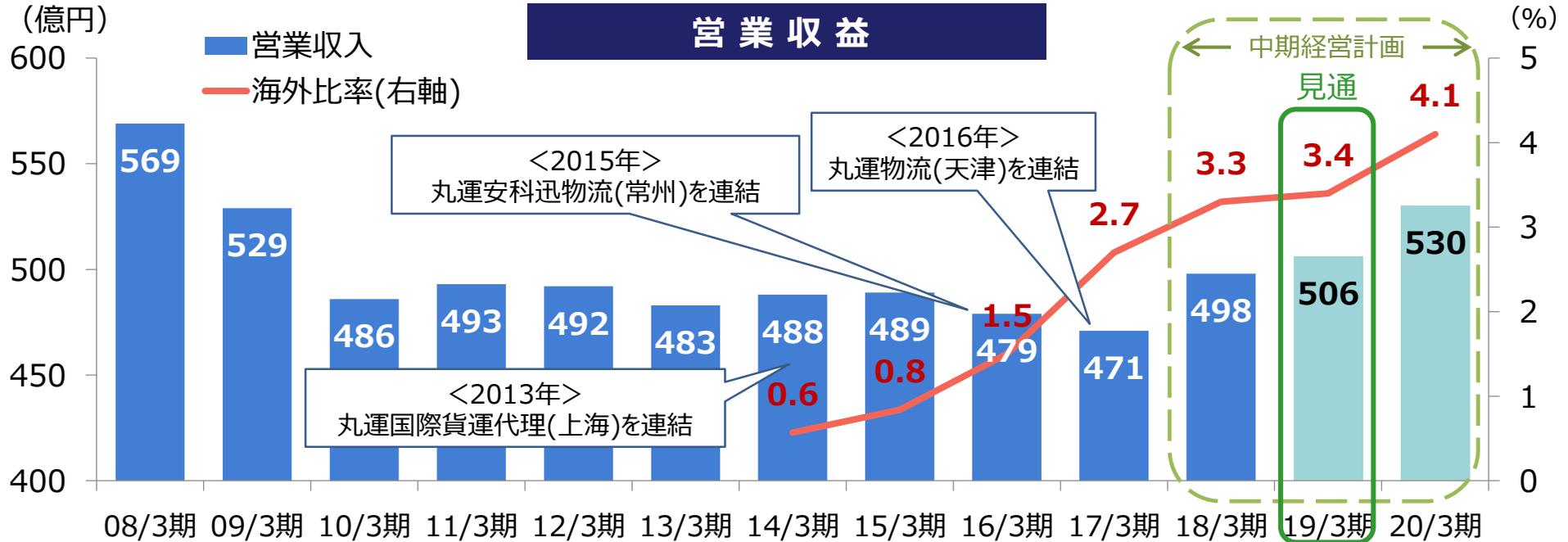
- 石油製品・LPGなどを全国の製油所・基地からガソリンスタンドや工場へ輸送。油槽所やガスターミナルの管理業務にも携わる。

### セグメント別売上構成比

(2018年3月期)



# 業績推移・計画



(5)



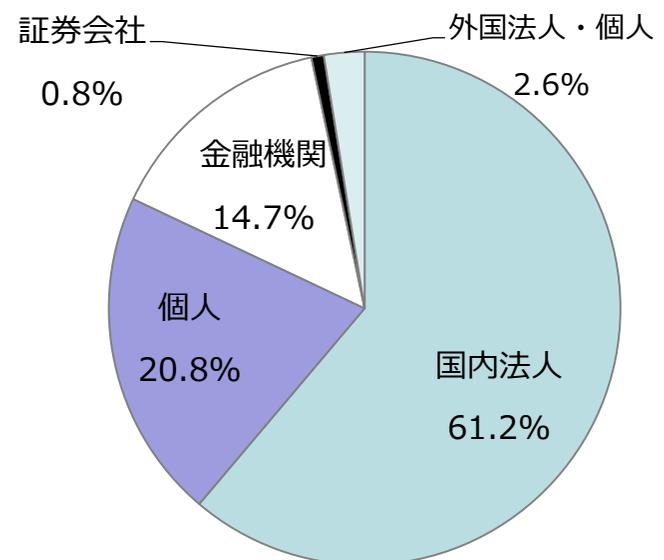
## ➤ 株価の推移

- 10年来安値：171円（2011/3/15）
- 10年来高値：407円（2018/1/18）
- 年初来安値：315円（2018/2/9）
- 年初来高値：407円（2018/1/18）

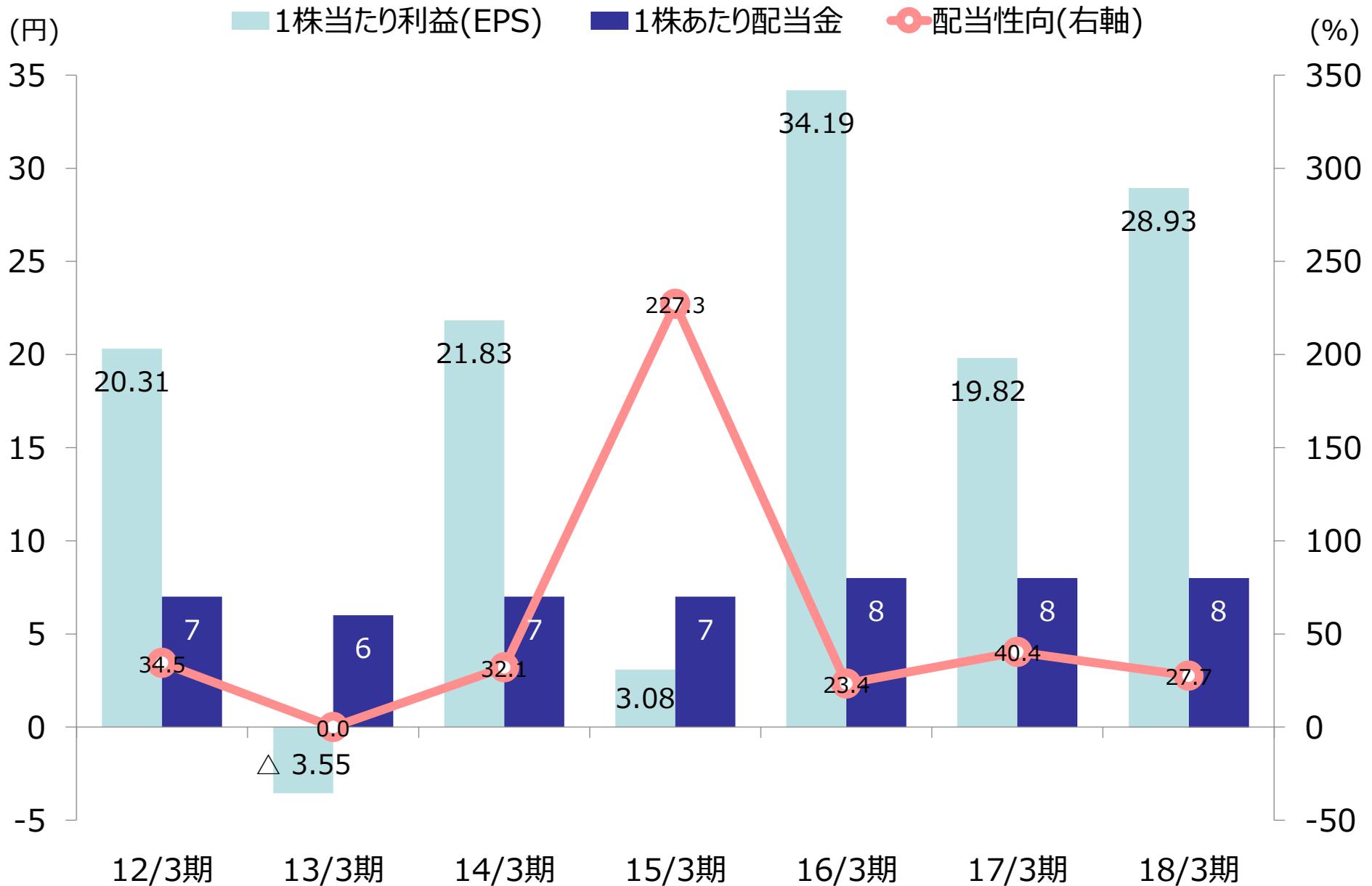
➤ 発行済株式数：28,965,449株（2018/3/31現在）

➤ 株主数：4,083名（2018/3/31現在）

## ➤ 所有者別株式分布状況



# 配当の状況



# BS・CF推移



BS(百万円)	09/3期	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期
流動資産	10,915	10,824	9,986	11,320	9,337	10,478	9,720	8,975	9,092	9,710
有形固定資産	26,204	24,889	27,401	26,723	28,078	26,047	25,353	24,723	25,067	24,715
無形固定資産	269	224	195	168	204	269	259	309	276	236
投資その他資産	3,176	3,303	3,419	2,813	2,835	2,620	2,788	2,893	2,616	3,056
固定資産計	29,649	28,416	31,016	29,705	31,118	28,938	28,401	27,926	27,959	28,009
総資産	40,564	39,241	41,002	41,071	40,482	39,426	38,121	36,901	37,052	37,719
流動負債	15,105	12,776	12,088	12,514	11,880	11,528	11,754	9,428	10,102	8,988
固定負債	8,571	8,575	10,426	9,407	9,759	8,827	7,020	7,312	6,283	7,099
負債合計	23,676	21,351	22,515	21,921	21,639	20,355	18,775	16,470	16,385	16,087
純資産合計	16,888	17,889	18,487	19,149	18,843	19,070	19,346	20,160	20,666	21,632
自己資本	16,704	17,676	18,265	18,940	18,646	19,057	19,337	20,103	20,602	21,552

CF(百万円)	09/3期	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期
営業CF	2,827	2,190	1,875	2,119	902	694	2,115	2,160	1,636	2,049
投資CF	△ 1,468	9	△ 3,947	△ 680	△ 2,508	1,439	△ 1,030	△ 1,271	△ 1,671	△ 1,177
財務CF	△ 1,686	△ 2,792	1,209	△ 315	157	△ 1,850	△ 1,637	△ 934	△ 602	△ 879
現金・現金同等物の 期末残高	3,878	3,286	2,426	3,556	2,108	2,428	1,879	1,885	1,550	1,555

# PL推移



PL(百万円)	09/3期	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期	15/3期	16/3期	17/3期	18/3期
営業収益	52,990	48,661	49,386	49,283	48,397	48,864	48,904	47,924	47,117	49,842
営業総利益	3,828	3,549	3,465	3,133	2,238	2,641	3,319	3,775	3,805	4,118
販管費	2,412	2,241	2,205	2,228	2,329	2,400	2,704	2,805	2,925	2,934
営業利益	1,415	1,353	1,259	905	△ 91	240	615	970	880	1,184
営業外収益	180	205	159	174	155	246	194	207	143	168
営業外費用	193	184	144	123	125	104	80	122	45	39
経常利益	1,402	1,374	1,275	956	△ 60	382	729	1,054	978	1,312
特別利益	68	87	118	534	81	1,363	64	906	109	141
特別損失	121	66	205	205	95	470	346	781	50	87
税引前利益	1,349	1,395	1,183	1,286	△ 75	1,275	447	1,179	1,037	1,366
親会社株主に帰属する 当期純利益	740	949	649	586	△ 102	630	88	987	572	835

(参考)

売上高経常利益率	2.6%	2.8%	2.6%	1.9%	-0.1%	0.8%	1.5%	2.2%	2.1%	2.6%
ROA	3.3%	3.4%	3.2%	2.3%	-0.2%	1.0%	1.9%	2.8%	2.6%	3.5%
ROE	4.5%	5.5%	3.6%	3.2%	-0.5%	3.3%	0.5%	5.0%	2.8%	4.0%
1株あたり純資産	578.08円	611.73円	632.12円	655.52円	645.35円	659.63円	669.35円	695.88円	713.15円	746.07円
1株あたり配当金	7.00円	7.00円	7.00円	7.00円	6.00円	7.00円	7.00円	8.00円	8.00円	8.00円
1株あたり当期純利益	25.61円	32.85円	22.46円	20.31円	△3.55円	21.83円	3.08円	34.19円	19.82円	28.93円
自己資本比率	41.2%	45.0%	44.5%	46.1%	46.1%	48.3%	50.7%	54.5%	55.6%	57.1%

## 社会福祉

- ◆ **NPO法人地球元気村への活動支援**  **地球元気村**  
自然環境保全・次世代育成支援を目的とした「地球元気村」の活動支援を開始。
- ◆ **障がい者作成絵画レンタル活動への協賛**  
障がい者が社会参加する機会提供を主な目的とする一般社団法人障がい者自立推進機構運営のパリンアートに協賛。
- ◆ **「童話の花束」チャリティー販売**  
JXTGグループの社会貢献活動の根幹である同活動に参加し、丸運グループの役員および従業員を対象に販売会を実施。



## 環境保全

- ◆ **丸運グループ全社一斉清掃活動を実施**  
清掃活動を通じて地域社会への貢献を目的とし、丸運グループ全事業所(約100か所)にて実施。
- ◆ **社員フォロー研修にて植樹を実施**  
創業者 金原明善ゆかりの地で恒例のヒノキ苗の植樹を実施。
- ◆ **「第16回・17回 ENEOSみらいの森ボランティア活動」に参加**  
岡山県の「高粱美しい森」において開催された同活動に(株)丸運テクノサポートの社員・家族が参加。



## 社会教育

### ◆ 真岡西小学校に掲示板を寄贈

朝日写真ニュース社が主催する「交通事故防止」キャンペーンに協賛し、栃木物流センター第2倉庫付近隣の小学校へ交通安全意識啓発のため掲示板を寄贈。



### ◆ 「交通安全教室」に参加

川崎市の小学校で開催されたPTA協議会主催の「親子自転車交通安全教室」に(株)丸運トランスポート東日本が参加。同社のトラックヘッドを貸出し、トラックからの死角等を子供たちに教えた。

## スポーツ協賛

### ◆ 少年少女観戦送迎バスツアーへ協賛

地域の子供たちの健全なスポーツマンシップ育成を目的としたFC東京主催の同活動に協賛し子供たちを招待。



### ◆ 「ダカールラリー2018」へ協賛

重大な交通事故の被害体験を乗り越え、親子二代で世界最高峰のラリーに挑む「チーム風間」とのスポンサー契約を昨年に引き続き締結。





#### 将来見通しに関する注意事項

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。

かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況または物流業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化
- (3) 訴訟等のリスク

などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

問合せ先 経営企画・IR・広報部

TEL:03-6861-3419 FAX:03-6861-3435